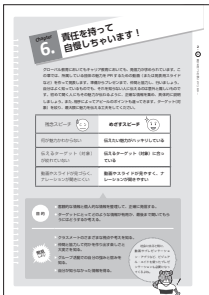


Chapter 6. 責任を持って自慢しちゃいます！

< 伝える対象者を特定し、その人にとって有用な情報を整理して、 正確に伝えるプレゼンテーションの練習 >


現在、グローバル教育においても、キャリア教育においても、「発信力」育成の重要性が叫ばれています。「発信力」とは、自分の意見や考えを、相手にわかってもらえるよう的確に伝えることです。現代の若者は、SNSなどのソーシャルメディアを多用していますが、人を傷つけるだけの批判や一方的な自己主張、選ぶ語彙の拙さなどが目立ちます。この章では、伝える相手を具体的に想定したうえで内容を吟味し、具体的で正確な情報を発信する練習をします。学生には、アピールの工夫を考えると共に、相手への想像力を責任を伴った発信力を身につけてほしいと考えています。さらに、グループでの協働を通し、役割分担や話し合いなどコミュニケーションを活発に行うことも目標としています。



学習目的	
★ 客観的な情報と主観的な情報を整理して、正確に発信する。	
★ 相手にとって有用な情報がどんなものか、最後まで聞いてもらうにはどうアピールするか考える。	
★ グループ活動を通してさまざまな視点や考えを知る。	
★ グループ活動での自分の強みと弱みを知る。	
★ 仲間との協働作業から、何かを作り出す楽しさと大変さを知る。	
★ 自分が知らなかった情報を得る。正確な情報の取得方法を学び、情報を得る。	
★ 情報を発信する際の責任について自覚する。	
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目……………動画またはスライド作成の準備	
2回目以降………発表	
発表形式	
動画またはスライドを使った1グループずつの発表	
準備するもの	
① 動画／スライドを見るための環境	
② 相互評価シート（聞き手の人数×発表グループの数）	→このPDFのp.70
③ 付箋（たくさん）・模造紙（グループの枚数）（ブレイン・ストーミングであるKJ法に使用）	

授業の進め方の例と注意点

● 1 回目 <プレゼンテーションの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0.	5～10分	(1) アイスブレイキング・アクティビティ「仲間を探そう」 (2) グループ分けアクティビティ	ヒント集限定! 
1.	15～20分	全体でワーク「いろいろな大学の紹介動画を観てみよう！」	p.72
2.	15～20分	グループでワーク「アピールポイントを探そう！」	p.73
3.	10～15分	グループでワーク「動画の内容を決めよう！」	p.74
4.	15～20分	個人でワーク（宿題にしても可） →グループでワーク「調べよう！」	p.75
5.	10～20分	グループでワーク「動画を撮る準備をしよう！」	p.78
6.	(残り時間)	「動画を撮ろう！」	p.80
7.	3分	発表の確認	p.80

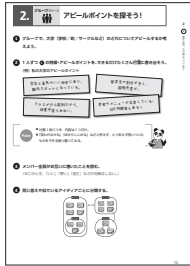
0-1. アイスブレイキング・アクティビティ：「仲間を探そう」[5～10分程度]

目的	同じことを思いつく人や同じ好みの人を知る。共通項を見つけることで、話しやすさを増す。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>(1) 学生は起立する。教師が挙げたトピックについて学生はそれぞれ自分の答えを言いながら、同じ答えの人を探してグループをつくる。</p> <p>(2) 教師はそれぞれのグループに答えを聞いていく。</p> <p>[トピック例]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 好きなお寿司のネタ ② 日本（東京／地域）のおすすめの観光地 ③ 休みの日にすること ④ 大学の食堂のおすすめメニュー ⑤ 大学の中の好きな場所 ⑥ この大学出身の有名人 ⑦ 自分がとっているおすすめの授業 など <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ どのグループにも属さない場合は1人でよい。 ※ ④～⑦のように、自分の大学や学校などについての質問を入れることで、この章のテーマを少し意識させることになる。 ※ 学生が立って移動できるスペースが必要。

0-2. グループ分けアクティビティ [5分程度]

目的	アイデア集めから動画／スライド作成、発表まで協力して行うグループを決める。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>1 グループ 3 ～ 5 人程度に分ける。</p> <p>【案 1：番号で集まる】 学生：順番に「1、2、3、1、2、3…」や「A、B、C、A、B、C…」などと言わせていき、同じ数字・アルファベットを言った学生でグループになる。</p> <p>【案 2：くじ引き】 あらかじめ 3 ～ 4 人程度のグループになれるようくじを作っておき、学生に引かせる。</p> <p>【案 3：数で集まる】 学生を自由に歩かせる。その途中で教師が適当な人数を指示。学生は、その人数で集まったらしゃがむ。数回くり返したら、最後に「3 人」あるいは「4 人」と指示を出し、グループをつくる。</p> <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none">※ 案 3 には十分に動き回れるスペースが必要。手拍子や音楽などがあると歩きやすい。白熱しすぎてケガをしないように注意。※ 授業開始からある程度の日数が経ち、気の合う仲間などができている場合は、自分たちで決めさせたほうがグループワークがスムーズに進みやすい。特に動画作成は、授業外に集まることを考慮すると、メンバーが会いやすいほうがよい。ただしその際には、全員がどこかのグループに入れるよう気を配る。

テキスト p.73



用意するもの

付箋・模造紙

- ※ メンバーで協力しながらまとめるように促す。
- ※ 分類作業のときに新しいアイデアが出てきたら、それを加えてもよい。
- ※ 分類しきれないアイデアは、そのまま残してよい。

ポイント・注意点

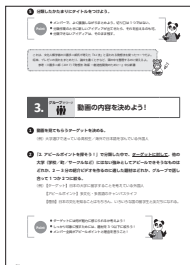
- ※ ここでは、KJ法をもとに簡略化した方法で、学習者のアイデアをまとめている。KJ法の詳細については、川喜田二郎(2017)『発想法 改版 一創造性開発のために一』中公新書を参照のこと。

3. グループでワーク：動画の内容を決めよう！ [10～15分]

ワークの目的

対象者を意識することで、アピールポイントを絞り、動画／スライドの作り方を工夫する。

テキスト p.74



動画／スライドを観せる対象者と、それに合ったアピールポイントの決定

手順

- (1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。
- (2) テキストの手順(①～②)に沿ってグループでワークを進めさせる。
 - ① 動画を観てもらおう相手(ターゲット)を決める。
[例] 大学選びで迷っている高校生／海外で日本語を学んでいる学生／大学院進学やゼミ選びに悩んでいる3年生
 - ② ターゲットに対して他の大学(学校／町／サークルなど)にはない強みとしてアピールできそうなものを選ぶ。
 - ③ 「2. グループでワーク：アピールポイントを探そう！」で分類したものを参考にし、
 - ・ターゲットには何が魅力に感じられるか
 - ・2～3分の紹介ビデオを作るのに適した題材はどれかグループで話し合っって1つか2つに絞る。

ポイント・注意点

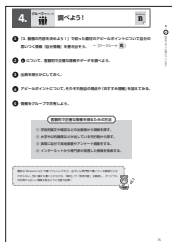
- ※ 教師は、メンバー全員が意見と理由を言っているかに注意を払い、促す。

4. 個人→グループでワーク：調べよう！ [15～20分]

ワークの目的

- ① 自分が感じている魅力について一度書いてみることで可視化する。
- ② メンバーのそれぞれの感じ方を知る。

テキスト p.75-77



客観的な情報および主観的な情報の整理

手順

(1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。

(2) テキストの手順(①～⑤)に沿ってグループでワークを進めさせる。

① 前出の作業で絞った題材のアピールポイントについて、各自自分の思いつく情報「自分情報」を書き出す。(⇒【ワークシート B】)

② ①について、客観的で正確な情報やデータを調べる。出典も明らかにしておく。

③ アピールポイントについて、それぞれ独自の視点や「おすすめ情報」を加えてみる。(⇒【ワークシート B】)

※ 時間が足りない場合は、ここまでの個人作業を宿題としてもよい。

④ ③までの作業が終わったら、情報をグループ内で共有する。

ポイント・注意点

※ サンプルを参照に、「自分情報」と「客観情報」との違いを明らかにする。

※ どのようなリソースに当たれば正確な情報が得られるかについても学んでほしい。

5. グループでワーク：動画を撮る準備をしよう！ [10～20分]

ワークの目的

- ① 自分たちの作りたいものを具体的な形にしていく。
- ② 各自の得意なことを生かし、責任を持って役割を担う。

動画のタイトルおよび構成決め

手順

(1) ワークの進め方と注意点、目的などについて確認する。

(2) テキストの手順(①～④)に沿ってグループでワークを進めさせる。

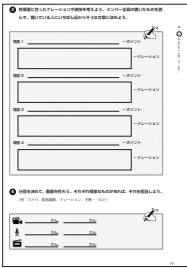
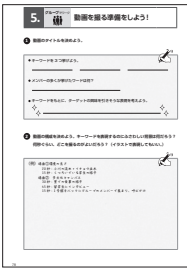
① グループで話し合い、動画のタイトルを決める。

- ・ 各自キーワードを3つ挙げる。
- ・ メンバーの多くが挙げたワードに注目する。
- ・ キーワードをもとに、ターゲットの興味を引きそうな表現を考える。

② 動画の構成を決める。(シーン決め)

- ・ キーワードを表現するのにふさわしい背景は何か考える。
- ・ 何秒ぐらい、どこを撮るのがよいか考える。

テキスト p.78-79



- ③ 各場面に合ったナレーションや演技を考える（ナレーション・演技決め）
 - ※ メンバー全員の書いたものを読み、聞き手にいちばん伝わりそうな文章にする。
 - ※ 誰か1人のものでなくてもよい。メンバーの文をつなぎ合わせて良いものを作るのも可。

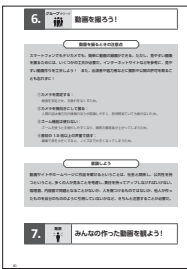
- ④ 分担を決め、動画／スライドを作る。
 - ※ カメラ、動画編集、ナレーション、字幕など、それぞれ得意なものがあれば、それを担当する。

ポイント・注意点

- ※ 担当がない学生がいらないか確認する。必ず何らかの役割を与える。
- ※ 動画を撮る際の注意点と公開のときの意識について確認する。

6. グループでワーク：動画を撮ろう！

テキスト p.80







ポイント・注意点

- ※ 動画作成の時間が授業内にとれない場合は、宿題とする。
- ※ 大学によってはカメラを貸してくれたり編集を手伝ってくれるサポートラウンジがある場合があるので、確認して利用するとよい。

7. 発表の確認：残り時間 [3分程度]

- (1) 動画の制限時間や発表の順番など、確認があれば行う。
- (2) 時間が足りなかった場合は、作業を翌週に延ばすか宿題にする必要があるの
で、最後に確認しておく。

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10分	発表前の確認事項	ヒント集限定! 
(2.)	(5～10分)	(グループ作業「リハーサル」)	ヒント集限定! 
3.	残りの時間	グループ発表と相互評価	ヒント集限定! 
4.	5分	宿題の確認	ヒント集限定! 

1. 発表前の確認事項 [10分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[→ PDF p.70]
(発表者の人数×聞き手の人数)

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ スライド発表の場合、アウトラインを確認してもよいが、原稿やスクリプトは読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。制限時間より早く終わってしまった場合、制限時間を超えてしまった場合のルールを事前に決めておく。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は動画再生／スライド発表中、話し手のほうに体を向けてしっかり鑑賞し／聞き、発表が終わってから相互評価シートを記入させる。
- ・ 大切なフィードバックなので、発表をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良いプレゼンテーションになるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。
- ・ 相互評価シートは発表後に回収し、授業の最後に各発表者に渡す。回収は、発表を終えた直後の学生が、自分の1つ前に発表した学生の相互評価シートを集めるようにすると時間が有効に使える。(発表者は発表終了後、自分の評価が記入されている間はすることがないため。)一番目に発表した学生には、最後の学生の相互評価シートを集めることも伝える。

(3) 発表順を決める。

- ・ 発表順に、発表グループ名をホワイトボードなどに記入させるとよい。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・ スライド発表の場合、発表しない学生からタイマー係や撮影係を決める。

ポイント・注意点

- ※ スライド発表の場合、発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ スライド発表の場合、タイマー係には、「あと 1 分」「あと 30 秒」などと大きめに書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
- ※ 相互評価シートを回収後すぐに本人に渡すと、読むことに集中してしまい、次の発表者のプレゼンテーションを聞かないことがある。それを避けるため、回収後はいったん教師が預かり、全員のプレゼンテーションが終わってから手渡すとよい。その場合、回収後は教師に渡すように指示すること。
- ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷の防止策として評価者の名前を記入させてもよい。

(2. リハーサル [5～10分])

手順

スライドを使った発表の場合、発表の直前にリハーサルを入れてもよい。

3. グループ発表と相互評価：みんなの作った動画を観よう！

目的

発表と評価の実施。

手順

- (1) 1 人ずつ前に出て、発表を行わせる。
- (2) 個人の発表終了ごとに、聞き手に相互評価シートを記入させる。その間に、教師は発表者に口頭でフィードバックを行う。
- (3) 話し手にはクラスメートから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

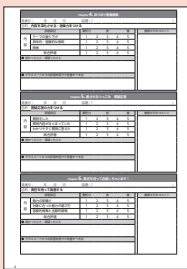
ポイント・注意点

- ※ 学生の人数が多い場合、発表は 2 週に分ける。
- ※ 各発表後に（発表者以外の学生が相互評価シートを記入している時間内）教師は発表者に対して個人的にコメントする（他のクラスメートに聞こえないように隅で行うとよい）。もしくは、教師から見た良い点や改善点をクラスで共有する形でもよい。

- ※ 発表直後の学生は、緊張からの解放により教師のフィードバックが耳に入らない場合がある。安静してから行うか、短いコメントに留めておくとうい。
- ※ まず、良かった点、頑張った点などのコメントを先にいくつか伝える。注意点を口頭で伝える場合は、最後に1つだけ伝える程度にするとよい。
- ※ 全員の発表が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

4. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

- (1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。
- (2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。
 - 自分の発表体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
 - 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。